

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 令和7年度 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像

- 自分のよさを知り、人とつながり協働する子
- 将来にゆめや希望をもち、その実現に向けて粘り強く努力する子

堺市立三宝小学校
校長 江里口 幸子

令和7年度 重点目標

学校教育目標 「心豊かで、主体的に学び、たくましく生きる力を身につけた子どもの育成」
 学校組織目標 「新たな学校マネジメントで実現する学びのある学校～出会い・居場所のある『笑顔』の見える『学校群』づくりをめざして～」
 教育重点目標 1 総合的な学力の育成…「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 2 笑顔あふれる学びの場づくり 3 心身の健康と安全・安心な教育環境づくり

「確かな学び」の現状

1) 昨年度、新たな学校マネジメントモデル学校群として選定され、「授業の改善」「カリキュラムの改善」に取り組んだことを生かし、今年度も教科における専門性を生かした小学校高学年専科指導を軸に、小中学校で9年間を見通した連続性・系統性のあるカリキュラムの編成に取り組む。
 2) 昨年度、ICTを活用した授業の充実に取り組んだことで、PCを使つての学習に9割を超える子どもたちが肯定的回答をしている。今年度も、学校群でICTを使った深い学びを実現するために、授業の改善、情報活用能力の育成に取り組むことにより、子どもたちの確かな学びにつなげる。

「豊かな心・健やかな体」の現状

1) 令和6年度の学校教育アンケートでは「学校生活は楽しい」が93.0%で昨年度より1.4ポイント、「自分から進んで挨拶をしている」が1.0ポイント、「自分によいところはあると思う」が2.6ポイント上昇している。今年度も、豊かな心の育成に取り組むため、様々な教育活動を通して自主的・実践的な道徳教育に力を入れる。「道徳の授業は楽しい」の項目について84%以上の肯定的回答をめざして働きかける。
 2) 「体育の授業は好きである」が1.4ポイント減少しているため、運動に対する肯定的意識の向上を図る。また、「みんないく」や「食育」の学習を通して、心身共に健康な児童の育成を行う。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	授業改善	ICTを活用した授業改善を行うことで、総合的な学力と児童の自尊感情の向上を図る。	●一人一台のパソコンを活用し「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現する授業を工夫し、児童全員が参加できる授業を行う。	「ICT活用実績アップ」 【肯定的評価90%以上】	学校教育アンケート (以下【学ア】)	1学期末 2学期末	○ 児童用パソコン活用の工夫について研究し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を取り入れた意欲的な研究を進めている。	◎	・各学年1回ずつ計6回の研究授業を実施。堺市学調「授業でパソコンやタブレットなどを、どのくらい使用していますか。」では、6年生の肯定的回答率85%（堺市平均33%）	◎	・子どもたちの学習のために、パソコンがツールとして活用されていることがよくわかる。情報モラル・情報の精査について、今後も指導を続けてほしい。
			思考の跡が見えるノートづくり（めあて、見通し、自力解決、意見交流、振り返り等）に取り組む。	「授業では自分の考えを書くことができています」 【肯定的評価88%以上】	【学ア】	○ 授業では、自分の考えを書く時間を大切にこし、授業の流れがわかるノートづくりに取り組んだ。	○	・自分の考えを書く取組を進め、児童の肯定的回答率86.7%（昨年度より+1.0%）	◎	・パソコンを使ったノートづくりなど、これからは時代とともにアップデートを進める必要がある。	
			年間指導計画に基づいた「考え議論する」道徳授業を実施し、「道徳授業が楽しい」と思う児童を育てる。	「道徳授業は楽しい」 【肯定的評価83%以上】	【学ア】	○ 道徳授業では、児童が自ら考え、話し合う時間を確保し、道徳的価値を深める授業に挑戦している。	○	・全クラスが年間1回参観で道徳授業実施。児童の肯定的回答率80.4%（昨年度より-2.0%）	○	・子どもたちが考えを持ち、深め、表現できる授業づくりを今後も期待する。	
豊かな心の育成	豊かな人権感覚の育成と特別支援教育の充実を図る。	★「出会い・居場所・出番」のある授業で自分の良さを知り自尊感情を醸成する。	「自分にはよいところがある」 【肯定的評価80%以上】	学力学習状況調査 【学ア】	○	○ グループでの活動を取り入れ、多様な意見を聞くことで、クラス全員の自己肯定感や自尊感情の醸成に努めている。	○	・児童がペアやグループになり学び合う「協働的な学び」を進めた。「ほめほめ週間」など、互いの良さを認め合う機会を設定。児童の肯定的回答率80.1%（昨年度より+0.8%）	◎	・「たてわり活動」で他学年と交流できることは、意見を聞いたりまとめたりなど、心が成長できる良い機会である。	
		特別支援教育の充実を図り助け合い学び合う学習集団を育て、道徳の指導とも関連づけて相手の気持ちがわかる児童を育てる。	「友だちが困っている時には、自分から進んで助けようと思う。」 【肯定的評価92%以上】	【学ア】	○ 支援学級の児童への理解を深めるため、各学年で啓発授業に取り組み、お互いの努力を認め合う場の設定に取り組んでいる。	○	・三宝学級発表会にて支援学級児童のがんばりを全校児童が参観。肯定的回答率92.5%（昨年度より-1.3%）	◎	・「みんな違ってみんないい」お互いを理解し、認め合うことを大切にされている。		
		いじめ防止基本方針に基づく対応をするとともに他機関とも連携し、生徒指導を行うことで「学校が楽しい」児童を育成する。	「学校生活は楽しい」 【肯定的評価92%以上】	【学ア】	○ 2度のいじめアンケート調査をもとに、児童や保護者へ聞き取りを行い、いじめには組織的・即座に対応するよう努めている。	○	・児童や保護者がいじめを訴えた際、組織的に対応することを徹底した。いじめ防止対策委員会にカウンセラーも加わり、多様な視点から協議。肯定的回答率89.8%（昨年度より-3.2%）	○	・「いじめ」の背景・理由は、いろいろあると思うが、保護者・地域と連携して、これからは指導を続けてほしい。		
豊かな心・健やかな体	規律作りの醸成と静謐な教育環境づくりを推進する。	●校長のリーダーシップのもと、あいさつ運動を組織的に活性化し、自ら進んであいさつのできる児童を育てる。	「自ら進んであいさつができる」 【肯定的評価82%以上】	【学ア】	○	○ 生活目標の柱の1つとして、朝礼時などに学校全体であいさつの大切さを共有し、あいさつ運動に取り組んでいる。	○	・児童会によるあいさつ運動、小中合同あいさつ運動を実施。肯定的回答率80.5%（昨年度より+2.6%）	○	・あいさつに関しても、継続指導が必要だが、学校で工夫しながら進めている。	
		「かけ足」を実施し、体力の向上を図る。外遊びの推進・体育授業の充実を図る。	「体育の授業が好き」 【肯定的評価86%以上】	【学ア】	○	○ 体育の授業のはじめには、「かけ足」に取り組んでいる。また、休み時間には、多くの児童が休み時間は運動場で過ごしている。	○	・全校の取り組みで、時間のはじめに「かけ足」を行うなど、体力の向上をめざした。肯定的回答率86.6%（昨年度より+2.3%）	○	・体力の向上について、環境づくりが大切だと思うので、「かけ足」の取り組みは、とても良いと思う。	
		●「食育」「みんないく」など健康に関する啓発を行い、健康な生活を過ごそうとする児童と家庭を育成する。	「健康に（けがや病気をしないように）気をつけて生活する」 【肯定的評価88%以上】	【学ア】	○	○ 毎日のHP更新や掲示物の作成、また、外部講師のオンライン交流も実施し、食育の充実に取り組んでいる。	○	・栄養教諭による食に関する授業を進めることができた。また、「0のつく日は、はよねデー」を実施し、保護者への啓発を行った。肯定的回答率87.9%（昨年度より+0.6%）	○	・食育での「オンライン交流」は、今の時代だからこそできる良い取り組みだと思う。	
学校独自の取組	防犯教育	地震・津波・高潮を中心に防災・減災に関する基本的事柄を身に付けさせる。	「避難の仕方がわかっているか」 【肯定的評価95%以上】	【学ア】	○	○ 一学期は火災避難訓練、二学期は地震・津波避難訓練（垂直・水平、土曜参観後には引き渡し訓練を実施した。	◎	・3学期には不審者対応避難訓練、遊放時避難訓練を実施。実施後は全職員で改善点を模索した。95.6%（昨年度より+0.1%）	◎	・地震や津波を中心とした防災教育は、三宝小学校区の子どもたちにとってはとても大切なので、これからも継続してほしい。	
		自ら進んで読書したり調べ学習をしたりするような本に親しむ児童を育成する。	「読書が好き」 【肯定的評価78%以上】	【学ア】	○	○ 学校司書の協力もあり本に親しめる環境づくりができています。時間確保と蔵書の充実を一層心がけたい。	△	・学校司書からの読み聞かせ、蔵書の増加などを中心に、読書環境の改善に努めた。肯定的回答率72.1%（昨年度より-3.1%）	○	・これからも家庭と連携しながら、読書環境整備を進めてほしい。	

校長より(年度末)

本年度も、地域・家庭との連携を重視し、信頼される学校づくりをめざして学校運営を進めた。子ども一人ひとりの「居場所」と「出番」を大切にし、安心・安全な学校環境の確保に努めた。総合的な学力の育成においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を効果的に実現する指導方法を探究するとともに、ICTを活用した深い学びをめざした研修を継続して行った。読書教育の充実に向けては、地域の協力を得て読み聞かせ活動を継続するとともに、蔵書の充実を図り、児童が読書に親しむ環境整備を進めた。来年度には学校群の公開授業を本校で開催することから、これまで取り組んできた「ICTを活用した授業づくり」を研究授業を通してさらに発展させ、教員の授業力向上に努めた。一方、「学校生活は楽しい」とする児童の肯定的回答が3ポイント減少した課題を受け、来年度は人権教育の一層の充実を図るため、「いじめはどのようなことがあっても許されない」という視点を教育活動の柱として位置付け、豊かな人権感覚の育成に取り組む。今年度は「みんないく」の取組を進め、児童の生活習慣の改善につながるよう働きかけを行った。また、栄養教諭による個別の健康相談を実施するなど、保護者と連携しながら心身の健康の保持増進に向けた支援を強めた。今後も家庭・地域と協働し、児童が安心して学び、健やかに成長できる学校づくりを進めていく。

学校関係者評価者から(年度末)

学校、保護者、地域の連携が大切だと感じます。様々な活動に尽力されている先生方に感謝します。これからも子どもたちがいろいろな人と関わり、明るくのびのび育ってくれるよう、今度とも、どうぞよろしくお願ひします。